報告

IOF アドバイザが太鼓判

スキーオリエンテーリング世界選手権 2009 準備ちゃくちゃく

木村佳司

サンタクロースの国・フィンランドからやってきた恰幅のいいオヤジさん。トナカイ代わりにスノーモービルを操る。

2008 年 3 月 8-18 日 北海道留寿都村

コルテニエミ氏
2009 年 3 月に北海道で開催されるスキーオリエンテーリング世界選手権のシニアイベントアドバイザ（SEA）。国際オリエンテーリング連盟（IOF）より派遣。

ずらりと並んだスノーモービル。トナカイソリの現代版。
これに乗ってテレインの中を視察に出かける

ルスツは素晴らしい場所

「ルスツは素晴らしい場所」。国際オリエンテーリング連盟（IOF）のシニアイベントアドバイザ（SEA）はこういい残してサンタの国へ帰っていった。スキーオリエンテーリング世界選手権大会 2009 を 1 年後に控え、ひとまずは好感触を得たようだ。

今回の視察は 2008 年 3 月 8 日から 3 月 18 日までの 10 日間に渡って行われた。あとは 1 年後の世界選手権に向けて日本側がどのような準備をするかにかかっている。

SEA の全般的な感想

基本的に素晴らしい環境である。大会 4 種目を通じて会場が一つであること。会場・宿所が近いこと。

会場設備がとても良い。（宿舎・オフィス・会議室・ワックスルームなどなど）

テレインも良い。スノーモービルの用意も充分。ただし地図についてはさらなる調査が必要である。

現地での打ち合わせ
左：コルテニエミ氏（アドバイザ）
中央：信原氏（北海道協会）
右：ハンヌ氏（アドバイザ補佐）
現地に足を運んで打ち合わせすることで、お互いの意思疎通が図りやすくなる。

NAGANO から10 年

今回、シニアイベントアドバイザとして派遣されたコルテニエミ氏と日本側メンバーは実は顔見知りだった。そうコルテニエミ氏は10年前に長野県で行われた「菅平高原国際スキーオリエンテーリング大会」の際に来日し、多くの日本メンバーと会っている。

当時のコルテニエミ氏の立場は IOF のスキー0 委員会委員長。今は委員長を勇退し、イベントアドバイザとして現場に戻ってきているのだ。

2009 年のスキーオリエンテーリング世界選手権では日本国内コントローラは筆者・木村が担当することになっている。1998 年の菅平高原国際大会のとき筆者は競技責任者を担当した。コルテニエミ氏と北海道で再会できるとは思わなかった。

精力的な視察

コルテニエミ氏ももはや年配者となった。このため補佐としてフィンランドからハンヌ氏を帯同した。2 名はルスツ滞在中に精力的にテレイン内部やその周辺施設を視察した。

大会のフロアプラン、会場レイアウト、リザーブテレイン、トレーニング環境、ワックススペース・・どんどん話が突き進んでゆく。

その情熱的な働きぶりを見ると、「この人たちってホントにスキーオリエンテーリングが大好きなんだな」と思わずにはいられない。彼らの動きにフィンランド人の国民性を見た思いだ。

国際社会の中で人口 530 万人のフィンランドが世界を席巻している分野が

いくつかある。世界最大の携帯電話メーカーNOKIA、世界中でインターネットサーバに使用されているソフトウェアのLINUX、いずれもフィンランドが世界に誇る技術だ。いずれも高い教育水準をもち、勤勉でモノやカラクリにこだわりを持つフィンランドの国民性が創り出した産業である。

日本側のスノーモービルオペレータたちも現地にアドバイザと一緒に入った。
アドバイザたちのプラン通りにスキーコースを作ることができるかを現地で検証している。斜面、植生状況、雪質などを自分たちの技術と照らし合わせる。

テレイン内の水系に架かる雪の橋（天然）。冬も後半になると、こうした雪の橋があちこちに架かり、スノーモービルが渡れるようになる。水系を横断したコース設定が可能となる。落ちれば危険だが、世界選手権参加選手の中でこれに落ちる者は居ない。

世界選手権の意味

自分なりにスキーオリエンテーリング世界選手権を日本で開催する意味について考えてみる。この世界選手権はIOF（国際オリエンテーリング連盟）のオリンピックプロジェクトに呼応する動きなのだ。

多くのメジャースポーツがオリンピックに正式種目として採用されている。逆にオリンピックに採用されることで競技種目が注目されることになる。

残念ながらオリエンテーリングはオリンピック種目に未だ採用されていない。オリンピック種目に採用されれば、これをバネにして世界の中でオリエンテーリングに注目を集め、この競技を普及させる道筋をつけることができる。

こうした考えに基づいてオリンピック種目入りを目指す方針がIOFにある。

夏・冬のオリンピックで新規種目採用のカベが低いのはどちらか？ それは冬のオリンピックである。オリエンテーリングの4種目（フット・スキー・MTB・トレイル）のうちスキーオリエンテーリングが最もオリンピック種目入りする可能性が高い。そこでIOFは現在ではスキーオリエンテーリングに限定してオリンピックプロジェクトを進めている。

新規種目がオリンピック種目になるためには、世界的な広がりが必要である。しかしスキーオリエンテーリングは主として北欧から東欧で行われていて世界的な広がりがあるとは言えない。

だがスキーオリエンテーリングはアジアでも唯一日本で行われている。ここで世界選手権が行われているという実績が示せればスキーオリエンテーリングの広がりを宣伝することになるだろう。

正直なところ、日本の少ない競技者数の環境で世界選手権を開催する事は簡単ではない。しかし、これはオリエンテーリング競技において国際社会から日本に期待されている最大の関心事なのだ。何とかこれに応えたい。

北海道大会に参加したコルテニエミ氏
日本で行われた競技に満足したようだ。

この実績の積み上げでスキーオリエンテーリングがめでたくオリンピック種目入りできたあかつきには、その恩恵に与るのはスキーオリエンテーリングだけではない。フット、MTB、トレイルなどすべてのオリエンテーリング種目において普及の大きな力となるに違いない。

スキーオリエンテーリングがすぐにオリンピック種目になる見通しは、今はない。しかし、世界選手権を日本で行ったという事実はこれからも永久に残る。これが2009年に北海道でスキーオリエンテーリング世界選手権を行う本当の意味だと思う。

（木村佳司）

毎夜、イベントアドバイザを囲んで、世界選手権に関する打ち合わせ。